



## 支え合いで優しい街づくりを

若槻地区住民自治協議会 会長 笠原 秀次郎

## 新年あけましておめでとーございます



皆様には健やかに新しい年をお迎えのことと推察申しあげます。旧年中は「若槻地区住民自治協議会(コミわか)」の運営に、ご支援とご協力を賜り、厚く御礼を申しあげます。本年もよろしく願いいたします。

さて2023年、令和5年ほどのような年だったのでしょうか。

国際的にはウクライナに加え、中東でもパレスチナを中心に大規模な戦闘が勃発、大勢の市民が犠牲になる事態に、怒り、そして涙しました。国内では記録的な酷暑の夏となり、私たちの生活に甚大な影響を及ぼしました。風水害も年中行事のように国内各地で頻発しました。物価高は生活を直撃、食料品やガソリンなど生活物資の高騰が私たちを悩ませました。

一方、新型コロナは、感染症としての分類が5類に引き下げられ、コロナ前までの日常回帰の動きが加速しました。

「コミわか」も感染に注意を払いながら様々な事業を展開しました。秋の文化祭「若槻総フェスタ」は、去年を大幅に上回る900人以上の人々が会場を訪れ、郷土芸能やコーラス、バザーなどを楽しみました。今回は飲食コーナーも復活させ、昼前には売り切れるほどの盛況ぶりでした。

スポーツ大会は、これまでの春の球技大会と秋の地区対抗運動会を見直し、秋の『スポーツフェスティバル』に統合しました。

当日はあいにくの雨に見舞われ、若槻小学校校庭で予定していたグラウンドゴルフは中止しましたが、同体育館にはソフトバレーやドッチビー、ポッチャなどを楽しむ歓声が響いていました。産声を上

げたばかりで、未熟な点も

あるでしょうが、少しずつ改善し、地域で愛されるイベントに育てたいと考えています。

さて、「コミわか」が今年度重点事業として取り組んでいるのが「ご近所支え合い運動」です。

超高齢化社会と、核家族化進行のペースが一層速まる中、若槻地区も一人暮らしのお年寄りが年々増加しています。そしてこれらのお年寄りが、地震や大雨、火災などの際に避難するのは大変だろうということは容易に理解できます。そんな時に、“〇〇さんのおじいちゃん、おばあちゃん大丈夫だろうか”など、ちょっと気にかけてくれるご近所さんがいれば何と心強いでしょうか。

私たちは緊急時に備えて、予め「救助の必要な人」と「安否について心がけてくれる近所の協力者」を決めておきたい…今その体制を作ろうとしているのです。

参考までに言えば、長野市内では既に多くの地域でこうした取り組みを始めていて、若槻地区が特別先進的なことをしようとしているわけではありません。

「コミわか」としては、地域福祉に日夜尽力いただいている民生児童委員の皆様との協力の度を強めながら「ご近所支え合い運動」を実現し、将来的にはご近所のつながりを生きがい対策などにまで深化させたい…そんな青写真を描いています。この事業は地域の皆様のご協力が不可欠です。ご理解をよろしくお願い申し上げます。

この一年が皆様にとって平穏な年になりますよう、心からお祈り申し上げます。

